



アメリカ研修記 Vo.2

2回目は「起業支援」についてです。シリコンバレーにある「Prospect Silicon Valley (PSV)」というNPOと「Plug and Play Tech Center (PnP)」という投資会社の2箇所を訪問・視察しました。PSVは、交通、エネルギー、建設、環境分野を中心に、次世代技術の提供を目的とし、様々な商業事業を進め、スタートアップ支援だけでなく、実証実験も行っています。また、起業に際し、資金調達などのアドバイスも行っています。企業、行政、大学、スタートアップ企業が連携するという「プラットフォーム」の形成が非常に重要であるも、それぞれで連携することが難しいため、NPOであるPSVが入ることで、連携しやすくなると考えています（NPO＝「利益追求ではない」ことを信頼のソースにしている）。ただ、あくまで商業的なベースのもと、「アイデアのみ」という初期のスタートアップ支援はせず、ある程度のビジネスに発展するものだけを対象としています。

PnPは、小さなオフィスビルに設立当時のGoogleやPayPalが入居したことをきっかけにPayPalへ投資をし、その後、PayPalがeBayに買収されたことで大きな資金を得て、設立されました。現在は3ヶ所にインキュベーション施設を持ち、300～400のスタートアップを支援、世界各国に支部があり、スタートアップ企業支援への投資を行っています。スタートアップ企業・企業・PnPがwin-win-winの関係であり、スタンフォード大学やUCバークレーなどの大学との連携にも力を入れています。日本に関しては、20社の企業が参加、大阪府立大学と連携し、福岡県がオフィスを構えています。

行政、NPO、企業等のプラットフォームが形成され、それらの協議により課題解決に進む「プラットフォーム型」というアメリカにおける課題解決への取り組み方の一つです。（小川）

第5回プラチナフォーラムを 開催します!!

「プラチナ人生を心身ともに健康に生きる」をテーマにプラチナ世代の皆さんの新たな一歩を踏み出すきっかけづくりを応援する基調講演と交流会を開催します。

日時：2月26日（日）

12時30分～16時20分

会場：松本市総合社会福祉センター4階大会議室

対象：おおむね55歳以上の方

参加費：300円（資料及び茶菓子代）

定員：150名 ※要申込

内容：

- ・基調講演「インターバル速歩でどんとこい熟年」
のせ ひろし 氏（信州大学大学院医科学系研究科教授・医学博士）
- ・ウェルカムコンサート&ステージ発表・交流会

主催：

プラチナサポーターズ松本
市民活動サポートセンター
社協ボランティアセンター

申込先：市民活動サポートセンター

※内容等の詳細はサポートセンターHP、または、チラシをご参照ください。

NPO セミナーを 開催します!!

「そもそも…

市民活動とは？」

「一般社団法人と

NPO 法人の違いって？」

「団体を起ち上げたいけどどうしたらいいかわからない」等の疑問に、実際に起ち上げている方の実例を交え、お答えします。

日時： ※時間は全日10時～12時

2月 1日（水） 市民活動基礎知識

2月 8日（水） ソーシャルビジネスの事例紹介

NPO 法人の設立1

2月15日（水） NPO 法人の設立2

2月22日（水） 広報戦略

参加費：無料

定員：30名 ※要申込/先着順

申込先：市民活動サポートセンター

※連続講座ですが、各回のみ受講も可。内容等の詳細はサポートセンターHP、または、チラシをご参照ください。

●市の委託事業であります、東日本大震災避難者支援事業の一環で、まつもと震災支援ネットが11月に行った福島スタディツアーの報告が3ページにございます。メンバーが見てきた“福島いま”を、ぜひご覧ください。

Close Up!

松本のまちづくりを考える女の101人会議

住所：松本市南浅間 528-3
TEL：0263-46-6065
E-mail：mioko_bk@6bay.jp

松本のまちづくりを考える女の101人会議は、平成元年3月19日に、一般社団法人松本青年会議所都市対策委員会の活動の一環として発足された団体とのこと。活動内容について、今年の4月から会長になられた六浦美保子さんにお話を伺いました。

まず、なぜ101なのですか？との質問に対し「100個の意見で終わらない明日を目指して、101個目のすばらしい意見に期待をしよう」と、発足時に名づけられた」と六浦さん。その精神は現在もメンバーに脈々と受け継がれているそうです。同会のメンバーは、“緑・水・城”をテーマに街なかを歩きながら生活や観光の視点でまちづくりを考え、河川のアレチウリの駆除や花いっぱい運動、セイジ・オザワ 松本フェスティバルの際にも花植えを行ったり、年一回は県内の他市町村を視察し活動に生かしながら、松本の街をより魅力的に、と他の市民活動



*会議の様子

団体との連携や情報交換等を行っているとのこと。また、昨年からは新たな活動として、城下町の歴史が生んだ地名が薄れていくことを危惧したメンバーがマップづくりを考案し、毎月定期的に集まり作成しはじめたそうです。表面には現在の地名と旧地名を一緒に記載し、裏面には旧地名のいわれを記載予定。六浦さんは、お話の中で「メンバーが主婦中心なので“できる時に、できることを”をモットーに。でも、学びながら討議をしていく。発足時の原点は忘れず、今後も松本のまちづくりを考えていきたい。」とおっしゃっていました。

松本の城下町には風情や明治以降の文化の香りがたくさんあります。「新旧松本の宝物を次世代に…」そんな財産をたくさん盛り込んだ地図。完成が待ち遠しいです。(山崎)

信州大学ボランティアネットワーク Volnet

住所：松本市旭 3-1-1
Facebook：https://www.facebook.com/volnet.shinshu/
E-mail：asahivn@shinshu-u.ac.jp

信州大学ボランティアネットワーク Volnet は、12年目のボランティアサークルである。今年から代表の山中さんと、元代表の黒澤さんに団体の活動について伺った。

「Volnetには現在、約100名が所属しています。活動の軸は①ボランティア情報の発信②ボランティア活動③自主企画です。近年はボランティア情報の発信とボランティア活動を主にしています。」と山中さん。また、昨年9月に行った、市民活動フェスタにも参加し、ここ数年は子どもが楽しめるブースの出展やスタッフとしても駐車場係をしていただいた。なぜ多岐にわたり、関わってくれるのだろうか。「何でも屋の学生ボランティア人材派遣です。」と黒澤さん。この言葉には驚いたが、次の言葉には、さらに驚いた。「学生は、社会人に比べて自由な時間があるので、その時間を社会のために使いたいと思っています。その時間が誰かを助ける時間に繋がるからです。」



*夏のイベントでのコマ

Volnetには様々な団体からボランティア、イベント情報が届く。「届いた情報を精査してメンバーに送信し、参加可能な人を取りまとめて先方へ返信します。また、参加してきたメンバーの話聞くことでも勉強になり、その経験が次に繋がり、サークルが活性化していきます。」と黒澤さん。自主企画については「高齢者の若い世代へ伝えたいことを汲み取りながら、子ども達と遊ぶ場といった、色々な世代の方と繋がれる空間づくりもしていきたいです。」と山中さん。

最後に「市民活動団体の皆さんから、たくさん情報を頂きたい。スタッフとしての参加も可能ですし、コラボレーションもしたいと思っています。ぜひご連絡ください。」と、笑顔で話したおふたり。若い人の力が必要な時、Volnet が力を貸してくれそうだ。(林)

まつもと震災支援ネット 1泊2日福島スタディツアー報告

報告者：まつもと震災支援ネット（生活クラブ松本支部） 池田 真由美さん

<行程表>

●1日目 11月12日（土）

NPO 法人ふくしま30年プロジェクト（放射能測定所） ⇒ 大波地区の仮置き場 ⇒ 屋内子ども広場 ⇒ 飯館村内（除染の様子、役場、細川牧場） ※宿泊所 MOMO にて交流会

●2日目 11月13日（日）

仮説住宅、復興住宅視察 ⇒ 大玉村直売所 ⇒ 本宮スマイルパーク ⇒ 環境創造センター ⇒ 野菜とパンの店「えすべり」で昼食 ⇒ 帰路へ

震災から5年8ヶ月を経た福島を訪れ、実際に見て、地元の人たちと交流し、福島のいまを知り、今後の活動に活かすことを目的として、2016年11月12日（土）、13日（日）に1泊2日の「福島スタディツアー」を実施しました。福島で多くのスタディツアーを企画している関さんに旅のコーディネートをお願いし、まつもと震災支援ネットのメンバー6名と浪江町から松本に避難されているご夫妻の計8名で福島に向かいました。

1日目はNPO 法人ふくしま30年プロジェクト内にある放射能測定所、大波地区の除染土の仮置き場、屋内子ども広場、帰還に向けて除染の進む飯館村、震災後28頭の馬が原因不明のまま、次々に死んだという細川牧場などを矢継ぎ早に見学。場所ごとに各自が持参した簡易測定器で空間線量を測りました。放射線量が下がっているところもあるものの、住居の身近に未だ高線量の場所があり、行き先の決まっていない仮置き場の黒いフレコンバッグの山を見るにつけ、除染ではなく移染に過ぎないことを実感しました。また、震災後、外で遊べない子どもたちのために作られた屋内遊び場には人工の砂場やたくさんの遊具が用意され、子どもにとっても人気があるとのことでした。しかし、この子たちが、屋内の砂場を当然のこととして育つことに危惧を抱き、子どもたちが自然の中でおもいきり遊べる環境を用意するのが大人たちの責務だと改めて思いました。宿泊所 MOMO では、交流会を持ち、それぞれの想いや1日視察をしてみての感想などを語り合いました。今回、福島から避難されているご夫妻がツアーに参加され、当事者としてのお話を聞いたこともとても意義深いことでした。



簡易測定器で近くの植込みを計測



一面に積み重なった仮置き場のフレコンバッグ

2日目は仮説住宅や復興住宅を車窓から眺め、豊富に地場野菜が並ぶ農産物直売所、英国のウィリアム王子が訪れたという本宮スマイルキッズパーク、環境創造センター内にあるコミュタン福島を見学。コミュタン福島は「放射線や環境問題を身近な視点から理解し、環境回復と創造への意識を深める施設」とのことでしたが、放射線の安全性をアピールする建物にしか見えませんでした。そして、旅の最後に昼食をいただいた、野菜とパンの店「えすべり」の大河原さんは震災前、有機農業を営んでいましたが原発事故で風評被害にあり、自分たちの作ったものを直接販売する場所を作ろうと農家レストランを開きました。店で使う野菜などは、全部計測し、数値を公開しています。また、人形劇団を主宰しており、私たちにも、震災で悲しい、悔しい、つらい思いをした人々をテーマにした人形劇を上演してくださいました。



屋内にある人工砂場



旅のおわりに「えすべり」にて

今回の福島訪問は「福島で暮らしていく」とはどういうことかを五感で感じる旅となりました。なかなか進まない復興の状況や多くの課題が山積している現実を目の当たりにし、私に何ができるだろうと考えさせられました。そんな中でも福島に暮らし、力強く前に進もうとしている人々と触れ合うことができたことは、ひとつの希望です。大河原さんのお店の名「えすべり」とは、エスペラント語で「希望」という意味だそうです。多くの人が福島を訪れて、福島のいまを自分の目で見て、感じてほしいと思います。（池田）

松本市消費者の会 波田地区の功績が認められ表彰されました!!

昨年10月25日（火）に、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会（略称：3R 推進協議会）主催の、3Rの取り組みに顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」が行われ、サポートセンターの登録団体である、松本市消費者の会波田地区が「“もったいない”から始まった不用食器の3R活動」というテーマで会長賞を受賞されました！

そこで先日、表彰状を手し、サポートセンターまでお越しくださった代表の織田ふじ子さんに、現在のお気持ちをうかがいました。

「平成19年に不用食器回収システムを立ち上げ、回収のノウハウを作り上げたこの10年は、食器回収のニーズに応えるために期待と不安を感じていたように思います。光陰矢の如し、今では県内の14の団体が実施するなどの広がりを見せ、さらに、私達の活動は男女共同参画問題の視点で評価されるようになりました。私達は、食器を介してたくさんの出会いの輪を持ちました。この輪を大切にしながら、食器のリデュース・リユース・リサイクル活動の飛躍を願います。表彰は、皆様の力強いご支援の賜物です。ありがとうございました。」



授賞式（右から2番目が織田さん）

■サポートセンターより

新まつもと物語プロジェクト × 松本市 共催事業
松本の観光について考える連続ワークショップ

「みんなのまつもと物語」

市公式観光情報ポータルサイト「新まつもと物語」は観光客の多様なニーズに応えることに加え、私たち市民が伝えたいことを発信するHPを作り続けています。今回、HP リニューアルに伴い、多くの方と松本の観光を考えるために、連続ワークショップを開催します。

1. “松本らしさ”とは? 松本のキャッチコピーを提案しよう!

日時: 1月25日(水) 18時30分~21時00分

- ・松本で活発に活動している市民グループの紹介
- ・キャッチコピーを考えて“松本ブランド”を提案しよう 他

2. “松本のインバウンド”について考えてみよう!

日時: 1月30日(月) 18時30分~21時00分

- ・外国人観光客に対して取り組んでいるグループの紹介
- ・外国人(国別)の情報発信について考えよう 他

3. 新まつもと物語HPコンテンツを考えてみよう!

日時: 2月8日(水) 18時30分~21時00分

- ・松本の良さを伝える1分動画を提案しよう
- ・観光客に歩いて欲しい10コースを提案しよう 他

●会場: 市民活動サポートセンター フリースペース

●定員: 50名 (先着順) ●料金: 無料

●申込み: 市民活動サポートセンターまで

※連続ワークショップですが、各回のみ参加も可



＼NPOを支えるNPO!?!／

NPO法人NPO夢バンクって
なんだろう?

NPO法人NPO夢バンクとは…
自らの意思でさまざまな課題に取り組み、地域を豊かにしたいと活動する長野県内の非営利組織の思いを実現するために、運営資金の融資をするNPOです。

(出資を受けるNPO夢バンク事業組合、またNPOや市民活動団体等に融資する、NPO法人NPO夢バンクにより構成されています。)

主な融資条件

- ・主たる事務所が長野県内にあること
- ・非営利活動団体であること
- ・融資金額の上限は300万円
- ・返済は3年以内で固定金利2.0%~3.0%以下(※条件により5年以内)
- ・連帯保証人が2名(内1名は代表者)必要(※融資条件により変わります)

ちなみに…

「元気づくり支援金」受取りまでの“つなぎ融資”もあります!

詳しいご相談は

NPO法人NPO夢バンクまで
〒381-0034
長野市大字高田1029-1 長野県NPOセンター内
TEL/FAX: 026-223-4321

最後に…融資相談の前に必ず☑を!

- 事業計画はありますか?
- 財務諸表や経理の状況は整理されていますか?
- 資金使途は明確ですか?
- 借入について、総会や理事会での承認を得られていますか?

♪ イベントやボランティア募集
♪ その他情報などをサポートセンターまでお気軽にお寄せください。通信やHPに掲載させていただきます!

プラチナサロン

日時: 2月9日(木) 10:00~15:00
午前の部 男だってアロマテラピー
午後の部 交流会

会場: 市民活動サポートセンター

対象: おおむね55歳以上

参加費: 800円 (お茶代・材料費含む)

ぶれあいサロン

日時: 3月9日(木) 10:30~14:00
10:30~13:00 障がい者施設による販売会
13:00~14:00 生演奏での合唱

会場: 市民活動サポートセンター

対象: どなたでも

参加費: 無料

お昼寝

突然ですが…お昼寝って大切です。大人には必要ないと思われがちですが、私は“集中力や体力の回復、ストレス解消”に役立つと思っています。ポイントは2つ。①お昼寝時間は15~25分程度がBEST!! ②眠る直前にカフェインの強い飲み物を摂取する。そして、お昼寝で一番大切なことは、長時間眠らないこと。30分を超えると一番大切な夜の睡眠時間を少なくしてしまいます。そこで、②のカフェインの強い飲み物!「そんな物を飲んだら眠れないのでは?」と、思うでしょ?しかし、覚醒作用が効き始めるまでの時間が約30分。つまり、ちょうどお昼寝を終えたい頃に効いてきて、スッキリと目覚められるので、気持ちよく午後の仕事に取りかかれます。ぜひお試しください。(笠松)

編集後記

1月も中旬になり、実家のこたつでお餅とおせちを頬張って昼寝していたあの数日間がもう遠い昔のこの様です。さて、1月末からサポートセンターが主催や共催で行う企画が立て続けにございます。皆さまどうぞご参加ください。また、サポートセンターHPのイベント情報も随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。(坪根)